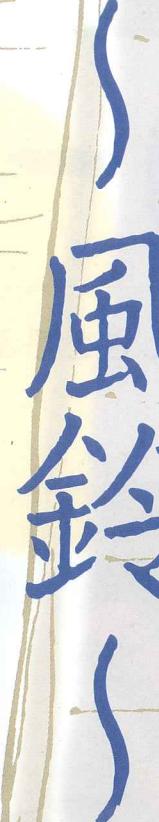


特集

涼しさを呼ぶ 風鈴

節電に励む暑い夏に、
風鈴の涼しい音色は一服の清涼剤です。
日本各地の個性的な風鈴をご紹介しましょう。



1 [北海道] 小樽ガラス風鈴
夏に開催される「小樽がらす市」では、風鈴がずらりと並ぶ風鈴トンネルが作られる。

2 [青森] 花笠風鈴
青森の祭り「ねぶた」のハネットがかぶる花笠を鋳物風鈴の上に飾った華やかな風鈴。

3 [岩手] 南部風鈴
伝統の南部鉄器による風鈴は、清涼感あふれる高くて澄んだ音色。

4 [秋田] 御殿まり風鈴
色とりどりの絹糸でかがられた美しい御殿まりが、鋳物風鈴の上に飾られている。

5 [東京] 江戸風鈴
ガラスの風鈴の口の部分がキザキザなので、ふり管が触れるだけで涼しい音がする。

6 [神奈川] 小田原風鈴
銅、錫、鉛の合金である砂張で作られており、澄んだ音色の余韻が長く続く。

7 [静岡] 竹千筋風鈴
伝統工芸品である織細な竹細工を南部風鈴に組合せ、見た目も涼しげな風鈴。

8 [兵庫] 明珍風鈴
姫路の伝統工芸品である明珍火箸を4本組み合わせており、澄んだ音色と余韻が特徴。

9 [和歌山] 備長炭風鈴
ウバメガシを高温で焼いた備長炭はとても固く、まるで金属のような澄んだ音がする。

10 [愛媛] 砥部焼風鈴
白地に藍色の模様が特徴の砥部焼の風鈴は、風に吹かれてやさしい音色を響かせる。

11 [佐賀] 伊万里焼風鈴
江戸時代からの伝統を受け継ぐ伊万里焼の風鈴は、磁器ならではの軽やかな音色。

12 [沖縄] 沖縄びじどろ風鈴
ビードロはポルトガル語でガラスのこと。琉球ガラスの風鈴は南国ならではの色と形。



一千年前の中国で吉凶を占つた占風鐸が風鈴の起源といわれ、日本には仏教とともに伝わりました。カラランという音が邪気を払うとされ、いまも寺の建物の四隅には風鐸が吊り下げられています。平安、鎌倉時代には貴族の屋敷にもつけられて風鈴と呼ばれるようになりました。

ガラスの風鈴が登場するのは江戸時代です。江戸中期までガラスは薄くて壊れやすく大変な高級品でしたが、江戸後期になると丈夫で安価なガラスが作られるようになり、天秤にたくさん風鈴をぶら下げた風鈴売りは江戸の夏の風物詩になりました。

風鈴の起源

藤棚地域ケアプラザでは、「単なる給食ではなく、家庭の味を!」をモットーに、調理員一同家族と同じ気持ちで、お客様に喜んでいただきたいと思います。



*写真
弁当箱の右手前から時計回りに、コロッケ風グラタン、鮭の蒸し寿司、水まんじゅう、野豆腐とがんものの物、春菊ときのこの白和え、甘酢しょうが。清まし汁。

お節句を祝う気持ちを込めた「五月弁当」です。ありきたりのものよりも、少しだけ珍しいものを召し上がつていただこうと、調味料を加えて炊いた酢飯に焼き鮭をほぐして混ぜた温かい「鮭の蒸し寿司」と、コ

ロッケの種を油で揚げずにチーズをのせてオーブンで焼いた「コロッケ風グラタン」にしました。副菜はいつも好評の「煮物」と「白和え」、デザートは初夏をイメージしてアジサイ色の「水まんじゅう」です。

藤棚地域ケアプラザには14年のレシピが蓄積されていますが、いつも同じメニューではなく、ちょっと工夫を加えています。

うちの自慢メニュー
藤棚地域ケアプラザ
五月弁当
当協会の地域ケアプラザや特養ホームの自慢料理をご紹介します。

知っていると役に立つ「年寄りの地獄耳」ってどういう耳?



これは、年齢とともに聞こえる音域が変化するためです。高い音は聞こえにくくなりますが、低い声で話される内容はちゃんと聞き取れてしまっていることです。

風鈴の音色

風鈴はガラス、鉄や銅などの金属、磁器や陶器、炭などで作られ、それぞれによい音色を響かせます。風鈴の音が心地よいのは、音が強くなったり弱くなったりする「ゆらぎ」にあり、音のゆらぎが脳をリラックスさせ、体と心を癒してくれるのです。